

## 釈迦ヶ岳く楊枝ノ森間の倒木処理作業

◇ 実施日 平成26年09月13日(土)～14日(日) 快晴

◇ 参加者 沖崎吉信、川島 功、青木宏充、杉本俊也

3年前の台風12号は、一部地区で2000ミリを超える豪雨と暴風によって、我々もその後の見廻りや処理に多忙であったし、池郷林道の復旧も2年9ヶ月を要し、今年6月やつと通行出来る様になるなど紀伊半島に甚大な被害をもたらしたものだ。行政に於いても奥駆道(本宮く吉野)の実態調査を行い、その処理について森林組合等に依頼する方向であった様だが、なにせ現場迄遠いし、その上一泊の必要もあつてうまく進まず、昨年十津川村より釈迦ヶ岳く楊枝ノ森間の倒木処理について要請があつたが、活動の北限太古ノ辻以北であることからお断りした。

今年に入り再度その処理について沖崎宛に話があつた。川島代表にも理解承諾を頂き、本日の作業となつたものである。事前の計画・準備段階では、13日～14日を実施日、翌週の20日～21日を予備日として参加者を募つた。

山彦の行事として、久しく足を踏み入っていない山域であつて、女性会員2～3名を含めて7～8人が参加の雰囲気であつた。実働作業組とこの山域を楽しんでもらう組の2組をイメージしたが、熊野修験秋峯入りと日程が重なる事。又、青木君からのアドバイスで天候具合では鳥の水・楊子ノ宿での水の確保が出来ず、千丈平・かくし水から採水持込が必要になるかも、もう一点は三連休

の為、楊子ノ宿での宿泊(定員12～13人)も到着時満員も予想されることから、テント・シュラフの用意持参も必要があるとの貴重な提言がなされた。

1週間延ばすことも考えたが、杉本君から13日～14日ならチェンソー持参で参加出来るとの申込があつたこともあり、実行人員5名以内で出向くと決めた。

当日、早朝5時過ぎ川島・沖崎で新宮出発、集合地の旭・峠登山口には7時30分少し前に着いた。前日車中泊の青木君、5時前に大和郡山市を出発した杉本君も到着していた。

それぞれが、食材、チェンソー、シュラフなどでポリウム・重量もかなりのものとなつている。私などこれに「かくし水場」から水3リットルが加わつたらどうなるのかと不安・心配がよぎる。

準備中「玉岡さんはお元気ですか」と声がかかる、聞けば20年近く前、持経宿・行仙宿で何度かお世話になつたとのこと。名前、住所を聞くのを失念してしまつた。

山彦の新調ブルゾンを着用していた事から声がかつた様だ。皆さんも山行時、極力ブルゾンの着用をお願いしたい。

7時48分出発した。予定通り2時間で千丈平水場に着いた。ここでも青木君から2～3日前に雨が降つた様だし、この出水具合からすれば、鳥の水・楊子ノ宿の各水場も心配ないの一言、あーあよかつた一安心。

10時15分釈迦ヶ岳山頂に着く。さあーいよいよ此処から作業かと又、孔雀手前迄の岩稜など険路の始まりと気を引き締める。

十津川村から頂いた資料では、両部分から孔雀岳分岐間で3カ所5本。楊子ノ宿前後で2カ所4本、計9本となつている。



釈迦ヶ岳山頂いざ倒木処理へ 道を塞ぐ倒木

両部分を過ぎ笹原となっている所から倒木が出だした。11時15分、1本目(径30cm)を処理する。続いて2本目、3本目と処理して行くが、その都度資料の地図写真と照合するが、どの方向から撮ったものか、又一部登山者が既に鋸で枝を処理済の倒木もあって照合不能。この近辺資料では5本のみとなっているが、それ以上軽くある。

台風12号の被害と思われるもののみ記載している様で、それ以前からの倒木はカットしている様だ。以後、照合は止め目の前に出た支障のある倒木は、全て処理することにした。

昼食後、鳥の水での水採取も予定通り進む。その後順調に進み仏生ヶ岳手前で、此処まで一番の大物が横たわっている。直径40cm位ある。腐りも無く生木そのもの、川島、杉本が左右1.5m幅位で刃を入れる。太く生木状態で杉本君のチェーンソーが挟まり抜けなくなった。早速、川島さんが逆方向から刃を入れ脱出を試

みるがなかなか手強い。その時、両刃が触れたのか川島のチェーンソーの刃が切断してしまった。替刃を持参したので取替える。

この間に何とか杉本君の刃が抜けたが、大物になればなるほど時間がかかるし、どう切込みを入れるかなど熟練・経験差が出る。その後は順調に進み、今夜泊る楊子ノ宿に10分位の地点に来た時、先刻より大きい直径約60cm位の倒木が道に横たわっていて、くぐり抜けるので支障を来たしている。

前の事もあり慎重に取りかかる。2カ所左右に刃を入れたが最後の一刃が、切口にたわみの加重がかかり入らない。たわみ緩和の為、先端近くで切ると共に枝を落すも効果無し。刃の隙間が少し出来るも引っ掛かる。杉本君切り口を拡げる為、斜めに切っていると刃が外れる。再び、切口をチェーンソーで切り上げ、ロープをかけて引き降ろす事が出来た。この間2台で3回チェーンソーの刃が外れるなど、悪戦苦闘、四苦八苦の末、この1本に約1時間を要してやっと処理出来た。

寝場所確保の為先行した青木君もあまり遅いので心配して途中でまで引き返して来た。聞けば来宿者は無くゆっくり寝れそうだと。

16時過ぎやっと楊子ノ宿に到着。作業時間、昼食などを含め8時間強の時間を要した。

単独の若者2名の来宿者あるもテント泊するとのこと、貸切となりそうだと。

事前に青木君より小屋での夕食は、鍋料理にするので任せてくれとの嬉しい言葉に甘える事にした。

ザックからは、鍋や皿、調度器、みそ鍋の素に野菜、茸、豚肉に加えて豆腐、出て来る水や諸々でザックの重さは25kgを超え

ていただろう。ありがたいきます。

18時過ぎ1人の登山者(八尾市・富田則雄氏66才)が入って来た。夕食に招き入れいろいろと雑談する中、2年前弥山(天川辻からの下山で迷い山中で一泊。翌日林道を歩いていると捜索隊と出会う、家族から捜索願いがあったとの事。費用も必要との話があり後日80万円の費用請求があったとのこと。ヘリが飛ぶ前に止めることが出来た、ヘリが飛んでいたら我家は破産していたと話された。我々も他人事ではない、要注意ですぞ。

富田さんには2階で寝てもらい、1階は我々4人が貸切、19時過ぎには床に着いた。

翌朝5時半頃に起床し、昨夜の鍋の残りにうどんを入れ朝食を済ませた。心配していた寒さ、冷え込みも無く気温10℃快眠出来た。

昨日もすばらしい天気であったが、今朝も雲ひとつ無いすばらしい天気である。

6時半から1時間をかけ、弥山方向・七面山の遥拝所間の倒木処理を行う。小屋に戻り7時40分小屋を後にする。今日は荷も軽くなったし、倒木の大半も処理済であり、昨日の持越し分や見落とした分の処理で、ゆっくり楽しもうと帰途に着く。

この天候に恵まれた為か、旭・峠登山口を早朝出発し、孔雀岳、仏生ヶ岳迄足を伸ばす登山客が20人以上出会った。

釈迦ヶ岳直下の急登では、朝の腹拵へが十分でなかった様で、急に空腹感に襲われフラフラ状態であった。直下で倒木を3本処理し、11時釈迦ヶ岳山頂に戻って来た。



倒木処理中の杉本君



空鉢岳辺りで小休止・釈迦ヶ岳を望む

山頂の釈迦像足下に金剛童子石碑があつた。行仙宿上手、俱利伽羅岳ピークに続いて三体目の発見だ。

好天で次から次へと100人以上の登山客が登って来て賑わっている。

千丈平・水場で昼食後、14時頃登山口に戻った。あーあご苦労様でした。

尚、同宿した富田氏は、椽の鼻辺りで合流、弥山小屋宿泊をキャンセルして旭口に下山との事で同行、杉本君が五條市迄お送りした。

・青木君は毎週大峯通いで、食事のこと、水場のこと、小屋のことと貴重な経験情報に助けられました。

・チェンソー操作を担当した川島、杉本両氏には、処理の都度背負子からチェンソーと持参荷を降ろし、処理後又荷造りを何度も繰返された、これだけでも大変であつたらう。ありがとうございました。

今回の倒木処理で3年前の台風12号による被害。又、それ以前・以後の倒木を含め全て処理をした。倒木処理区域も本宮から楊枝ノ森迄約60kmを処理した事になる。

尚、倒木処理前及び処理後の写真は、別途作成済。

### 倒木処理カ所別処理本数

9月13日(土)

両部分く鳥の水：5カ所9本。鳥の水く仏生ヶ岳下：3カ所5本。  
仏生ヶ岳下く楊子ノ宿：4カ所6本。

9月14日(日)

楊子ノ宿く楊枝ノ森：7カ所8本。  
鳥の水く孔雀岳分岐：2カ所2本。釈迦ヶ岳直下：3カ所3本。  
千丈平く古田の森：1カ所1本。 **総計：27カ所34本。**

### 行動タイム

9月13日(土) 天候：快晴時々薄雲

新宮5:15→7:25 峠登山口7:48→9:00 古田の森→9:35 千丈平  
(かくし水)9:50→10:15 釈迦 10:30→11:40 昼食 12:20→12:50  
孔雀覗→13:20 鳥の水→16:10 楊子ノ宿

9月14日(日) 天候：快晴 朝：気温10℃

起床5:30→朝食→楊子ノ宿6:30→七面分岐迄倒木処理→7:25  
楊子ノ宿7:40→鳥の水8:55→9:45 空鉢岳辺り→11:00 釈迦ヶ  
岳 11:15→11:35 かくし水(昼食)→13:55 峠登山口 14:20→  
16:25 新宮。

(記 沖崎)